

# BSE問題について、リスクコミュニケーションの推進に努めています

食品安全委員会では、平成16年10月15日、我が国における牛海綿状脳症(BSE)対策の見直しに関する諮問を受けた後、厚生労働省、農林水産省、都道府県などの協力を得て、この問題について広く国民や関係者からの意見を聴くための意見交換会を、全国で開催しました。

## ●47都道府県50会場で開催

食品安全委員会では、国民の意見をプリアン専門調査会における議論の参考とするため、意見交換会を開催して参りました。昨年10月から本年1月17日までの3ヶ月間で、全国47都道府県・50会場で開催してきました。参加者総数は約5600名。20代～70代以上の幅広い世代の国民の皆様に、ご参加いただいています。

## ●全国各地で出された主な意見は?

意見交換会では、一般の消費者や酪農関係者、流通業などのさまざまな立場の方々から多くの意見をいただいています。その意見の内容も、検査、SRM除去、飼料規制など多岐にわたりました。例えば、BSE検査については、「全頭検査はやめるべきでない」「EUと同様に30ヶ月齢で検査の線引きをすべき」などと意見が分かれます。

なお、米国産牛肉輸入再開について、「政治的状况に左右されず、科学的に安全性優先で取り組むべき」という声とともに「一日も早く輸入再開を」と望む声もありました。

これらの意見交換会の内容やアンケート結果は、当委員会のホームページで公開していますので、ぜひご覧ください。

▶ <http://www.fsc.go.jp/koukan/zenkoku/index.html>

### ※国際獣疫事務局(OIE)

動物の伝染性疾患の状況に関する情報の透明性の確保を目的として、国際協定に基づく国際機関として1924年に設立。家畜に関する科学的な情報の収集と普及、家畜の伝染性疾患の制御に向けた国際協力や専門的知見の提供、家畜の国際的取引のための衛生規約の策定を行っている。参加国は167カ国(2004年時点)、本部はパリ(フランス)。

## ●OIE事務局長を招へいし講演会も

意見交換会に加えて、より新しい情報を知っていただくため、これまで海外のBSEやプリオン病専門家を招へいし、講演会を開催してきまし



た。今回は本年3月10日に、動物の伝染性疾患に関する国際機関である国際獣疫事務局(OIE)※の事務局長であるベルナル・ヴァラ博士を招き、「OIEの役割とBSEの国際基準」と題しての講演会を、東京都内で開催しました。

## ●vCJD患者確認に対する、食品安全委員会の見解は?

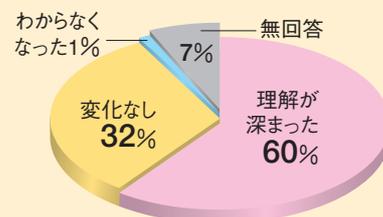
本年2月、厚生労働省により我が国初の変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)患者が確認されました。これを受けて、当委員会では2月4日、以下のとおり委員長談話を公表しました。

1. 今回、厚生労働省により我が国初の変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)と確認された患者は、英国滞在時に感染した可能性が現時点では有力と考えられていると承知しています。
2. 当委員会が昨年9月に発表した「日本における牛海綿状脳症(BSE)対策について-中間とりまとめ-」にあるように、現在の我が国のBSE対策によって、「vCJDが発生するリスクは、そのほとんどが排除されている」と考えております。
3. 国民の皆様には、現在の対策のもと流通している牛肉等を食べてもリスクは高まらないと考えておりますので、冷静に対応していただきますようお願いいたします。

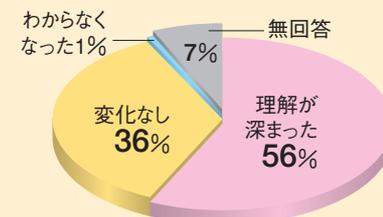
### ■意見交換会参加者アンケート結果の概要 ※意見交換会参加後の感想。

※50会場参加者のうち2822人からご回答いただいた結果より抜粋

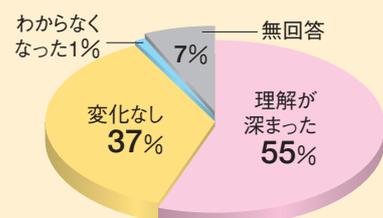
#### ●日本におけるBSE感染牛発生状況について



#### ●特定危険部位(SRM)の除去やこれまで行われていないと畜場におけるBSE検査について



#### ●肉骨粉の牛への利用が禁止されているなどの日本の飼料規制について



#### ●BSE対策について

